

報告第 3 4 号

株式会社エムウェーブの経営状況の報告について

地方自治法第 2 4 3 条の 3 第 2 項の規定により、株式会社エムウェーブの経営状況について、第 2 9 期事業報告書及び第 3 0 期事業計画書を提出する。

令和 8 年 9 月 3 日

提出者 長野市長 荻 原 健 司

株式会社 エムウェーブ第29期事業報告書

自：令和7年4月1日

至：令和8年3月31日

1 事業の概要

(1) 事業の経過及びその成果

「エムウェーブ」及び「ビッグハット」は、長野オリンピックレガシーを後世に繋いでいくとともに、長野市の「スポーツと文化の振興」及び「地域産業の発展」に資することを目的とした施設です。

当社は、当該施設の指定管理者として、関係機関との連携の下、積極的なイベント誘致活動と情報発信を展開するとともに、質の高いサービスを提供し、一層の利用促進を図ることによって地域経済の活性化と魅力づくりに貢献してまいりました。また、アイススケートにおいては、競技力向上や普及促進を図るなど、施設の役割を果たす中で、創意工夫をもって営業収益の確保に努めてきたところであります。

当期の事業実績として、運営面では、上期のグリーンシーズンにおいては、エムウェーブが第1期長寿命化工事により令和7年2月から7ヶ月間休館したことから、代わってビッグハットで数多くのイベントが開催されることとなりました。下期のアイスシーズンに入り、エムウェーブでは長寿命化工事が終了し、全日本スピードスケート距離別選手権大会、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック代表選手選考会を兼ねた全日本スピードスケート選手権大会、全国中学校スケート大会、ビッグハットでは全日本アイスホッケー選手権大会などの大きな大会が開催され、多くの観客にお越しいただきました。また、スケートに親しむ環境づくりとしては、中学生以下の滑走料無料化の対象を市内限定から全員へと拡大したことや、アイススポーツデー2025の開催、一般営業時間や無料開放日の確保等を行い、競技振興としては、前述の大会のほか、自主事業としてエムウェーブ競技会やランキングアップMシリーズを開催し、スケートの普及促進を図ってまいりました。

収支面では、エムウェーブでは長寿命化工事に伴い売上高は大きく減少しましたが、施設が稼働していないことから経費も縮小され、収益幅は少ないものの営業収益を確保できました。ビッグハットでは、イベント増による増収が大きく、人件費及び物資の高騰による委託費等の増加、夏季の猛暑への空調対応による光熱費の増加はあったものの、見込額以上の営業収益を確保できました。

結果として当社全体では、売上高は6億6,266万円となり、対前期1,749万円の減少、販売費及び一般管理等は6億4,788万円で、対前期426万円の減少となりました。

その結果、当期の営業利益は1,478万円の黒字、営業外収支を含めた税引前当期利益は2,045万円の黒字となったものです。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益	
全体 総括	27期実績		479,607	652,184	633,719	18,465
	28期実績		457,833	680,159	652,154	28,006
	29期実績		375,757	662,667	647,885	14,782
	増減	27期比	△103,850	10,483	14,166	△3,682
		28期比	△82,076	△17,492	△4,268	△13,224

(2) 施設部門別実績

ア エムウェーブ部門

(ア) 収支実績

長寿命化工事により、グリーンシーズンは休館していたことから、売上高は3億9,586万円と対前期より4,451万円の大幅な減収となりました。一方、販売費・管理費等は、休館に伴い全体的に縮小したことで、製氷用の冷凍機をガス式から電気式設備へ更新したことによる光熱費の影響は、電気使用料が政府支援によって抑えられたこともあり、3億9,008万円で、対前期2,060万円の減少となりました。

結果として、営業収益は577万円の黒字となり、対前期2,391万円、対前々期360万円の減少となっています。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益
エムウェーブ	27期実績	216,733	396,079	386,699	9,379
	28期実績	206,414	440,376	410,689	29,687
	29期実績	98,418	395,860	390,084	5,776
	増減				
	27期比	△118,315	△219	△3,384	△3,603
	28期比	△107,996	△44,516	△20,606	△23,910

(イ) 施設見学及び売店部門

長野オリンピックミュージアムは、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックのスケート競技メダリストの写真パネルを購入するなど充実を図りました。なお、今期は長寿命化工事による休館の影響からアイスシーズンだけの開館となり、前期より2,800人ほど少ない6,580人にお越しいただきました。近年は外国人観光客が全体の15%程度と増えてきています。

売店では、ミラノ・コルティナオリンピックや JOC TEAM JAPAN の公式グッズの販売を行い、売上は111万円で、対前期27万円の増加となりました。

(ウ) 貸館部門

グリーンシーズンの貸館営業は、長寿命化工事により休館となり、ビッグハットへの移行の調整を図ってまいりました。従って長寿命化工事後の会議室等とアイスリンク解氷後のイベントのみの利用となり、売上高は721万円で対前期3,649万円の減少、入場者数は6,633人で、117,733人と大幅な減少となっています。

(エ) スケート部門

長寿命化工事が終了し、全日本スピードスケート距離別選手権大会はじめ、ミラノ・コルティナオリンピック代表選手選考を兼ねた全日本スピードスケート選手権大会、全国中学校スケート大会といった全国クラスの大会に加え、自主事業としてランキングアップMシリーズやエムウェーブ競技会を開催し、売上は3,490万円、大会入場者数は27,822人と対前期3,460人ほどの増加となりました。

スケート入場については、リンク営業期間が従前に戻り、スケート教室やアイススポーツデイ2025の開催、無料開放や一般営業時間の確保や、中学生以下の滑走料無料化事業を拡大

したことから、売上は4,177万円で対前期571万円の増加、スケート入場者数はNTC利用者を含め57,383人と対前期9,076人の増加となりました。

エムウェーブのアイススケートの営業概要は、次のとおりです。

■アイススケート期間（営業期間：159日間）

令和7年9月11日(木)	スピードリンク製氷作業（～9月30日）
10月1日(水)	スピードリンクオープン（全日本及び競技者受入れ）
10月2日(木)	ホッケーリンク整備（～11月1日）※大会期間中断あり
10月5日(日)	スピードリンク一般営業開始（無料開放日）
11月2日(日)	ホッケーリンクオープン
11月4日(火)	スケート教室受入れ開始
令和8年3月8日(日)	営業終了
3月9日(月)	解氷作業（3月9日～18日）

■無料開放（7日間）

令和7年10月5日(日)	来場者	442人
11月9日(日)	〃	1,573人
12月7日(日)	〃	1,751人
令和8年1月18日(日)	〃	2,005人
2月21日(土)	〃	1,588人
2月22日(日)	〃	3,075人
3月8日(日)	〃	2,001人

■NTC（ナショナルトレーニングセンター）

アイスリンク専有時間	188時間
利用選手数	延べ13,561人（うち、NTC選抜有資格者2,847人）
トレーニングルーム利用者数	延べ 829人

■主な競技会・イベント

第32回全日本スピードスケート距離別選手権大会	令和7年10月24日(金)～26日(日)
第70回長野県高校総体スケート競技会スピード競技	12月9日(火)～10日(水)
第93回全日本スピードスケート選手権大会	12月26日(金)～28日(日)
第64回長野県中学校総体スピードスケート競技会	令和8年1月5日(月)～6日(火)
第46回全国中学校スケート大会(スピードスケート)	1月31日(土)～2月3日(火)
2025/2026長野県ジュニアスピードスケート競技会長野大会	2月8日(日)
第24回エムウェーブスピードスケート競技会	2月13日(金)～15日(日)
ランキングアップMシリーズ（3回）	令和7年11月22日(土)～24日(月)
	12月12日(金)～14日(日)
	令和8年1月10日(土)～12日(月)
アイススポーツデイ2025	令和7年11月16日(日)参加者数141人

スケート教室（幼保・小学校）

教室開催日	41日間
参加学校数	延べ 66園・校
参加者数	延べ 5,700人

（オ）その他

館内の広告看板営業収入と自動販売機販売手数料等のその他売上については、休館が影響しており、広告収入は広告効果が見込めない期間を短縮したことによる減収、自販機はイベント減少に伴う販売額の減少により、売上額は、対前期の約半分の484万円となり、521万円の減少となりました。

イ ビッグハット部門

（ア）収支実績

売上高については2億6,680万円で、グリーンシーズンは、エムウェーブから移行したイベント等を含めて数多くのイベントが開催され、アイスシーズンには、全日本アイスホッケー選手権大会や全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）が開催されるなど、対前期2,702万円、対前々期1,070万円の増加となりました。

販売費・管理費等については2億5,780万円で、人件費及び物資の高騰による委託費の増加、夏季の猛暑への空調対応による光熱費の増加があり、対前期1,633万円、対前々期1,078万円の増加となりました。

結果として、売上高の増加幅が大きく営業収益は900万円の黒字となり、対前期1,068万円の増加、対前々期7万円の減少、利用者数は277,339人で対前年比25,920人の増加となりました。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益
ビッグハット	27期実績	262,874	256,105	247,020	9,085
	28期実績	251,419	239,784	241,464	△1,681
	29期実績	277,339	266,807	257,802	9,006
	増減	27期比	14,465	10,702	△79
		28期比	25,920	27,023	16,338

（イ）貸館部門

アリーナは、コンサート、展示会、スポーツ大会の開催など多様な分野でのイベントの会場として、利用いただきました。

売上は9,198万円、入館者数は187,408人で、対前期1,912万円、18,938人の増加となり、対前々期929万円、23,529人の増加となっています。

ホール及び会議室の貸館を行う若里市民文化ホールについては、売上は2,883万円、入館

者75,785人で、対前期432万円、1,174人の増加となっています。

(ウ) スケート部門

スケート大会等につきましては、全日本アイスホッケー選手権大会や全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）が開催されたほか、アイスホッケーのローカル大会も予定どおり開催されました。

スケート大会売上は1,434万円、入場者数は11,840人となり、前期と比べ売上は174万円増加し、入場者数は4,330人の増加となりました。

スケート入場の売上は294万円、入場者数は2,306人となり、アイスリンク営業期間が短かった前期と比較すると146万円、入場者数は1,478人の増加となりました。

ビッグハットのアイススケートの営業概要は、次のとおりです。

■アイススケート期間（営業期間：71日間）

令和7年12月1日（月）	ホッケーリンク製氷作業（～12月14日）
12月15日（月）	ホッケーリンクオープン
令和8年3月1日（日）	アイスリンク営業終了
3月2日（月）	解氷作業（3月2日～3月15日）

■主なイベント及び競技会

第93回全日本アイスホッケー選手権大会	令和7年12月18日（木）～21日（日）
第46回全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）	令和8年2月1日（日）～3日（火）
親子でアイスリンクづくり体験	令和7年12月13日（土）参加者：12組

(3) 営業成績及び財産状況の推移

(単位：千円)

区 分	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
売 上 高	93,020	503,205	477,700	427,268	411,745	342,744	360,336	368,690	226,660
当期損益 (税引後)	△9,014	△32,767	32,162	5,041	6,673	△279	8,568	6,572	18,438
1株当り 当期損益	円 △1,502.35	円 △5,461.1	円 5,360.47	円 840.22	円 1,112.14	円 △46.52	円 1,428.05	円 1,095.37	円 3,072.95
純 資 産	290,986	258,219	290,382	295,423	302,096	301,817	310,385	316,957	335,395
総 資 産	345,709	318,346	348,281	377,501	334,536	327,694	350,694	349,387	383,298

区 分	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期
売 上 高	626,482	643,286	628,308	648,565	677,245	627,560	644,889	663,919	639,418
当期損益 (税引後)	36,142	18,123	14,059	16,599	19,293	12,519	2,578	5,978	12,185
1株当り 当期損益	円 6,023.69	円 3,020.33	円 2,703.64	円 3,192.09	円 3,710.20	円 2,407.55	円 495.91	円 1,149.65	円 2,343.43
純 資 産	371,537	389,660	363,719	380,318	399,611	412,130	414,709	420,686	432,872
総 資 産	450,954	464,166	430,645	473,967	470,712	483,716	488,594	507,272	505,043

区 分	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
売 上 高	674,087	682,983	621,096	640,918	622,865	505,313	566,681	607,640
当期損益 (税引後)	13,658	16,386	12,598	8,008	1,254	△32,243	△10,237	△48,661
1株当り 当期損益	円 2,626.62	円 3,151.22	円 2,422.80	円 1,540.16	円 241.19	円 △6,200.57	円 △1,968.65	円 △9,357.88
純 資 産	446,531	462,917	475,516	313,525	314,779	282,535	272,298	223,637
総 資 産	539,002	563,713	547,772	393,314	385,087	338,210	540,549	344,473

区 分	第27期	第28期	第29期
売 上 高	652,184	680,159	662,667
当期損益 (税引後)	22,490	33,247	13,722
1株当り 当期損益	円 4,325.15	円 6,393.75	円 2,639.02
純 資 産	246,127	279,375	293,098
総 資 産	379,071	342,198	366,884

(注)

- 1 第1期は、当社設立が6月1日であり、9月30日までの4か月間です。
- 2 第9期から事業年度を4月1日から翌年3月31日までと変更したため第9期は6か月間です。
- 3 1株当たり当期損益は、期末発行済株式の総数から算出しています。なお、発行済株式の総数については、自己株式を除いています。
- 4 第10期からビッグハット及び若里市民文化ホールの指定管理業務を行っています。
- 5 第22期において、資本金の額を3億円から9,000万円に減少するとともに、自己株式800株を消却しました。

(4) 設備投資の状況

ア ビッグハットにポータブルアンプを購入しました。

イ オリンピックミュージアムにミラノ・コルティナオリンピックメダル獲得者の写真パネルを購入しました。

(5) 会社が対処すべき継続的取組

ア 長野オリンピックレガシーとして大切な施設である「エムウェーブ」、「ビッグハット」を後世に引き継いでいきます。

- ・グリーンシーズンには、施設の利用促進を図り、地域振興や経済の活性化に貢献していきます。
- ・アイスシーズンには、アイススケートの拠点としてスケート文化の醸成を図っていきます。とりわけ、スケート人口の増加と普及促進のため、子どもたちを中心に、気軽に楽しくアイススケートに親しむ環境をつくることや、競技団体と連携して、NTC運営のほか競技大会の誘致・開催など、競技力の向上に努めていきます。

イ 効率的な経営を行い、常に良質なサービスを提供し、継続的な黒字経営に努めていきます。

2 会社の現況

(1) 株式の状況

会社が発行する株式の総数	24,000株
発行済み株式の総数	5,200株
株主数	8名

株 主 名	当社への出資状況	
	持 株 数	出資比率 (%)
長野市	3,000	57.7
長野県	600	11.5
株式会社 前川製作所	800	15.4
鹿島建物総合管理 株式会社	500	9.6
株式会社 八十二長野銀行	160	3.1
長野信用金庫	80	1.5
長野県農業協同組合中央会	30	0.6
長野都市ガス株式会社	30	0.6

(2) 取締役及び監査役の氏名等（令和8年3月31日現在）

会社における地位	氏 名	担当または主な職業
代表取締役会長	荻 原 健 司	長野市長
代表取締役社長	倉 島 明	株式会社エムウェーブ（常勤）
専務取締役	小 林 祐 二	株式会社エムウェーブ（常勤）
取締役	高 橋 寿 明	長野県観光スポーツ部長
取締役	吉 田 秀 樹	株式会社八十二長野銀行常務執行役員
取締役	西 澤 雅 樹	長野市副市長
取締役	小 林 真 二	長野市スポーツ部長
監査役	宮 澤 幸 彦	長野信用金庫常務理事
監査役	新 芝 正 秀	長野県農業協同組合中央会専務理事

（注）当該事業期中の取締役及び監査役の異動は、次のとおりです。

1 取締役退任

令和7年3月31日付けで加藤 浩氏、鈴木秀規氏が退任されました。

令和7年10月1日付けで松山大貴氏が退任されました。

2 取締役就任

令和7年6月25日付けで高橋寿明氏、小林真二氏が就任されました。

令和7年11月7日付けで西澤雅樹氏が就任されました。

3 監査役退任

令和7年6月23日付けで鈴木弘一氏が退任されました。

令和7年6月26日付けで武重正史氏が退任されました。

4 監査役就任

令和7年6月25日付けで宮澤幸彦氏が就任されました。

令和7年8月8日付けで新芝正秀氏が就任されました。

(3) 従業員の状況（役員を除く。令和8年3月31日現在）

人 数		平均年齢	平均勤続年数
男 性	7 名	53歳 7 ヶ月	6.4年
女 性	5 名		

第 29 期

決 算 報 告 書

令和 7 年 4 月 1 日 から

令和 8 年 3 月 31 日まで

株 式 会 社 エ ム ウ ェ ー ブ

(法人番号:5100001000463)

令和 8年 3月31日現在

商号 株式会社 エムウェーブ

代表者 倉島 明

(単位：円)

[illegible]

損益計算書

令和 7年 4月 1日から
令和 8年 3月31日まで

商号 株式会社 エムウェーブ

(単位：円)

科 目					金 額		
I	売上 売上 施設	上 店 管	上 売 理	高 上 負 担 金	229,092,201 1,112,354 432,462,721	662,667,276	662,667,276
II	売 期 商 合 期 売	上 首 品 末 上	棚 仕 棚 総	原 卸 入 卸 利	811,121	950,098 811,121 1,761,219 950,354	810,865 661,856,411
III	販 販 営	費 費 業	及 及 一 般	一 般 管 理 費 益	647,074,244	647,074,244 14,782,167	
IV	営 受 雑	業 取 取	外 配 収	収 利 当 益 息 金 入	764,483 200 4,906,795	5,671,478	
V	営 営	業 業	外 外	費 費 用	0	0	
	経	常	利	益		20,453,645	
VI	特 特	別 別	利 利	益 益	0	0	
VII	特 特	別 別	損 損	失 失	0	0	
税 引 前 当 期 純 利 益						20,453,645	
法人税、住民税及び事業税					6,730,715	6,730,715	
当 期 純 利 益						13,722,930	

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 7年 4月 1日から
令和 8年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
旅 費 交 通 費	2,093,661
広 告 宣 伝 費	10,272,367
販 売 促 進 費	481,741
作 業 委 託 費	300,382,880
車 両 管 理 費	223,157
市 納 付 金	3,542,727
役 員 報 酬	10,325,600
給 与 手 当	44,386,138
法 定 福 利 費	8,791,853
福 厚 生 費	1,805,397
そ の 他 人 件 費	834,350
減 価 償 却 費	2,980,006
賃 借 料 費	2,060,580
修 繕 費	6,972,730
事 務 用 消 耗 品 費	1,047,164
通 信 運 搬 費	1,431,552
電 力 水 道 光 熱 費	207,488,011
租 税 公 課	516,663
寄 付 金	5,859,518
接 待 交 際 費	197,789
保 険 料 費	748,880
備 品 消 耗 品 費	9,593,316
支 払 手 数 料 費	20,829,566
会 議 費	217,414
会 費	584,682
調 査 費	105,194
施 設 管 理 費	926,700
貸 倒 償 却 費	40,000
維 持 費	2,334,608
合 計	647,074,244

棚 卸 資 産 の 計 算 内 訳

令和 8年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商 品	950,354
貯 蔵 品	1,112,978
合 計	2,063,332

株主資本等変動計算書

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月31日

(単位：円)

	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本	純資産合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他 利益剰余金		利益剰余金 合計			
						別途積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	90,000,000	0	0	0	0	0	189,375,322	189,375,322	0	279,375,322	279,375,322
当期変動額											
剰余金の配当											
当期純利益							13,722,930	13,722,930		13,722,930	13,722,930
当期変動額合計	0	0	0	0	0	0	13,722,930	13,722,930	0	13,722,930	13,722,930
当期末残高	90,000,000	0	0	0	0	0	203,098,252	203,098,252	0	293,098,252	293,098,252

個 別 注 記 表

令和 7年 4月 1日から
令和 8年 3月31日まで

Ⅰ. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

Ⅱ. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却方法

(1)有形固定資産

法人税法の規定に基づく定率法又は旧定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については法人税法の規定に基づく旧定額法、平成19年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の資産については、法人税法の規定に基づく3年均等償却を採用しております。

(2)無形固定資産

法人税法の規定に基づく定額法又は旧定額法を採用しております。

ただし、取得価額10万円以上20万円未満の資産については、法人税法の規定に基づく3年均等償却を採用しております。

(3)リース資産

法人税法の規定に基づくリース期間定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については法人税法に規定する法定繰入率により計算した回収不能見込額のほか、個別に債権の回収可能性を検討し、必要額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当期負担額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

Ⅲ. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額

91,540,244円

Ⅳ. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数

5,200株

Ⅴ. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、56,365.04円であります。

2. 一株当たり当期純利益は、2,639.02円であります。

以 上

株式会社エムウェーブ 第30期事業計画について

自：令和8年4月1日 至：令和9年3月31日

第30期（令和8年度）につきましては、引き続き、グリーンシーズンでは、エムウェーブとビッグハットの両施設を一括運営しているメリットを生かしてイベントの誘致・企画を進め、地域の活性化や魅力づくりに貢献してまいります。

また、アイスシーズンでは、スケートの拠点として、気軽にスケートを楽しめる環境を作りスケート人口の増加を図るとともに、日本スケート連盟をはじめとするスケート関係団体と連携を深め、大会の誘致のほか、競技大会の盛り上げや選手関係者への良好な競技環境を提供し、スケートの魅力発信と競技力の向上、オリンピックムーブメントを推進してまいります。

具体的には、エムウェーブ部門では、グリーンシーズンは、アリーナ等でのイベントや展示会等12件が開催予定です。アイスシーズンにおいては、全日本スピードスケート距離別選手権大会、全日本選抜スピードスケート競技大会、全国中学校スケート大会、ランキングアップMシリーズなどの大会が予定されているほか、スピードスケート競技のNTC競技別強化拠点の運営によるスケートの競技力向上やスケート観戦・魅力発信を行うほか、全ての中中学生以下の滑走料無料化、一般営業時間の確保、滑走料無料開放日の設営、スケート教室やアイススポーツデイによりスケートに親しむ環境づくりに取り組んでまいります。

ビッグハット部門では、アリーナ利用として、グリーンシーズンは、コンサートや展示会等42件と密な開催予定となっています。アイスシーズンにおいては、全日本アイスホッケー選手権大会、全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）が予定されています。若里市民文化ホールは、身近なホール、会議室として多くの方のご利用予定をいただいています。

第30期予算については、人件費と物価高騰等に伴う経費増やエネルギー価格の動向等を踏まえつつ、指定管理者として、関係者と連携を図りながら売り上げの確保と一層経費の縮減に取り組んでまいります。

（単位：千円／税抜き）

		売上高	販売費・一般管理費等	営業利益
全体	第29期決算見込	663, 997	652, 975	10, 552
	第30期予算	699, 097	698, 087	609
	増 減	35, 100	45, 112	△9, 943
エムウェーブ	第29期決算見込	398, 307	396, 625	1, 212
	第30期予算	437, 569	433, 443	3, 725
	増 減	39, 262	36, 818	2, 513
ビッグハット	第29期決算見込	265, 690	256, 346	9, 344
	第30期予算	261, 528	264, 644	△3,116
	増 減	△4, 162	8, 298	△12, 460

第 30 期 計 画 損 益 計 算 書

株式会社 エムウェーブ

自 令和 8 年 4 月 1 日

至 令和 9 年 3 月 31 日

単位：千円（税抜き）

科 目			金 額	
経 常 損 益 の 部	営 業 損 益	営業収益		699, 097
		売上高	699, 097	
		営業費用		698, 488
		売上原価	401	
		販売費・一般管理費	698, 087	
		営業利益		609
	営 業 外 損 益	営業外収益		4, 200
		受取利息	0	
		雑収入	4, 200	
		営業外費用		0
		支払利息	0	
	経 常 利 益			4, 809